

工藤利彦：三上日出夫先生のご逝去を悼む
Toshihiko KUDO: Hideo MIKAMI (1918-2005) in memorium



札幌大学名誉教授三上日出夫先生は、かねてより病氣療養中のところ、去る平成17年4月10日に薬効の甲斐なくお亡くなりになりました。享年86歳でした。先生は大正7年6月18日に北海道旭川市にてお生まれになりました。北海道旭川師範学校（現在の北海道教育大学旭川校）を卒業され、昭和13年より8年間余りを札幌市立西創成小学校訓導として勤められました。昭和21年5月大学入学資格検定試験に合格して北海道大学理学部植物学科に入学され、山田幸男教授のもとで海藻の分類学を学ばれました。昭和24年3月の大学卒業と同時に北海道立札幌第一高等学校（現在の札幌南高等学校）教諭に採用されました。高校教諭として教育活動に携わる一方で、藻類の分類学的研究を鋭意お続けになり、その研究成果に対して昭和37年2月北海道大学より理学博士が授与されました。昭和42年4月に私立札幌大学の開学に際して教養部助教授として赴任され、翌年4月に教授に昇任、同時に開設された女子短期大学部へ移籍されて、7月まで短期大学部主事、引き続き昭和44年9月まで女子短期大学部長を勤められました。札幌大学には22年間お勤めになり平成元年3月に定年退職されました。それまでの功績に対して札幌大学から名誉教授の称号がおくられました。定年退職を機に昭和62年11月より果たしてこられた学校法人評議員の役職も辞され、悠々自適の生活に入られて、ご自宅で藻類研究の生活を続けられておられました。

北大理学部植物分類学講座に在籍されていた時期、三上先生は北海道日高沿岸の海藻相をお調べになっておられました。調査の成果である日高沿岸の海藻リストやさく葉標本は、植物分類教室の後輩学生にとって、各自の研究課題で採集・調査地点選定の資料となったりあるいは調査試料標本として、大いに役立ちました。また、大学院修士課程で海藻相の研究を行うことが植物分類学講座ではしばらく慣例となっており、三上先生の学位論文「A systematic study of the Phylloporaceae and Gigartinaeae from Japan and its vicinity」

(1965)は修士課程の学生にとって必ずひもとなければならない文献でもありました。学位を取得された後、先生は紅藻コノハノリ科に研究対象を移され、以降、お亡くなりになるまでコノハノリ科藻類の分類学的研究を精力的にお続けになってこられました。その研究成果は多数の学術論文として著され、恩師山田幸男先生の名を冠したGenus *Yamadaphycus* (1973, 和名：このはのりもどき属) や共同研究者でもあった北大名誉教授吉田忠生先生の名前を記念したGenus *Yoshidaphycus* (1992, 和名：ひげむらさき属) を含む4新属をコノハノリ科内に発表されております。一方で、コノハノリ科内には三上先生の名前を記念してWynne (1977)によりGenus *Mikamiella*, Zinova (1981)によりGenus *Hideophyllum* が設立されております。また、三上先生は海藻研究のみならず顕花植物についてもお詳しく、共著にて北海道新聞社より「北海道 植物教材図鑑(野の花)」(1977)、「同(続 野の花)」(1979)、「同(山の花)」(1984)を著されています。これらの図鑑は野草愛好家に好評を博し、その後「北海道の植物(野の花・山の花)」、「北海道の野の花」と、書名が変更・統合され、内容的にも改訂・増補されるなどして、現在なお増刷を重ねるロングセラーとなっています。

三上先生が研究打ち合わせ等の用件で北大理学部においてになると、植物分類教室の大部屋に顔を出すわけではないのですが、決まって和菓子「白松がモナカ」が大部屋の学生にも振る舞われ、先生が来学されたことがわかりました。学生一同、舌鼓を打ちながら三上先生の心遣いに感謝したものです。また、年末恒例の植物分類教室の忘年会では、大先輩であるにもかかわらず一次会だけでなく二次会にも参加して、若い学生にも優しく接していただき、謙虚で温厚なお人柄の先生だどつくづく感じ入ったものです。こうした三上先生のお人柄は札幌大学で先生と同僚だった方々からも度々お聞きすることです。大学が困難に直面した時期にも、三上先生は柔軟な中に芯の通った考えを堅持され、常に良識の中心だっ

たとのことでした。先生の穏やかな語り方が思い出され
ます。

謹んで三上日出夫先生のご冥福をお祈り申し上げます。

主要研究業績一覧

著書

- 三上日出夫・谷口弘一 1977. 北海道 植物教材図鑑(野の花). 北海道新聞社. 札幌.
三上日出夫・谷口弘一 1979. 北海道 植物教材図鑑(続 野の花). 北海道新聞社. 札幌.
三上日出夫・谷口弘一 1984. 北海道 植物教材図鑑(山の花). 北海道新聞社. 札幌.
三上日出夫 1986. 海藻編. p. 153-250. 稗田一俊・高橋誼(編) 北海道 海辺の生きもの. 北海道新聞社. 札幌.

学術論文(和文)

- 三上日出夫 1957. 紅藻ニセカレギサ及びアカバに於ける雌性生殖器官の発達について. 藻類 5: 14-20.
三上日出夫 1970a. ハイウスバノリの体構造と生殖器官について. 藻類 18: 60-66.
三上日出夫 1970b. コノハノリの生長点及びプロカルブについて. 藻類 18: 67-71.
三上日出夫 1970c. スズシロノリ(コノハノリ科)は *Holmesia* ではない(予報). 藻類 18: 108-111.
三上日出夫 1971a. 北海道産コノハノリ科(紅藻)の新メンバーについて(予報). 藻類 19: 5-8.
三上日出夫 1971b. ライノスケコノハ *Pseudophycodrys rainosukei* Tokida について(予報). 藻類 19: 39-43.
三上日出夫 1971c. ナガコノハノリの新知見. 藻類 19: 85-89.
三上日出夫 1972a. アツバスジギヌは *Nitophyllum* の仲間である. 藻類 20: 14-19.
三上日出夫 1972b. スメハノリ *Delesseria violacea* (Harvey) Kylin について. 藻類 20: 54-58.
三上日出夫 1972c. カシワバコノハノリについて. 藻類 20: 77-82.
三上日出夫 1973a. ヒメムラサキのプロカルブ及び雄性体. 藻類 21: 24-28.
三上日出夫 1973b. ハスジギヌは *Nienburgia* ではない. 藻類 21: 60-64.
三上日出夫 1974a. ヒメコノハノリについて. 藻類 22: 52-57.
三上日出夫 1974b. スジウスバノリの性質について. 藻類 22: 149-155.
三上日出夫 1975. ホシガタウスバノリの新知見について. 藻類 23: 127-132.
三上日出夫 1976a. カクレスジ(紅藻, コノハノリ科)について. 藻類 24: 13-19.
三上日出夫 1976b. ヒメウスベニ(紅藻, コノハノリ科)の新知見. 藻類 24: 81-86.
三上日出夫 1977a. コノハノリモドキ(紅藻, コノハノリ科)の完熟体について. 藻類 25: 7-11.
三上日出夫 1977b. タチウスベニ(紅藻, コノハノリ科)について. 藻類 25: 143-147.
三上日出夫 1980. カギウスバノリ(紅藻, コノハノリ科)について. 藻類 28: 113-116.
三上日出夫 1985a. ノコギリバベニハノリ(紅藻, コノハノリ科)

について. 藻類 33: 51-56.

- 三上日出夫 1985b. 紅藻ヒダトリギヌについて. 藻類 33: 245-248.
三上日出夫 1986. スジギヌ(紅藻, コノハノリ科)について. 藻類 34: 225-229.
三上日出夫 1987. クシノハウスベニとスジベニハノリ(紅藻, コノハノリ科)について. 藻類 35: 124-129.
三上日出夫 1988. ヤレウスバノリ(紅藻, コノハノリ科)について. 藻類 36: 3-47.
吉田忠生・三上日出夫 1996. 日本産アヤニシキ属の種類について. 藻類 44: 59.

学術論文(英文)

- Mikami, H. 1954. A new species of *Neodilsea*: *Neodilsea tenuipes* Yamada et Mikami. Sci. Pap. Inst. Algal. Res. Hokkaido Univ. 4: 83-85.
Mikami, H. 1956. Two new species of *Porphyra* and their subgeneric relationship. Bot. Mag. Tokyo 69: 340-345.
Mikami, H. 1965. A systematic study of the Phylloporaceae and Gigartinaeaceae from Japan and its vicinity. Sci. Pap. Inst. Algal. Res. Hokkaido Univ. 5: 181-285.
Mikami, H. 1971. *Congregatocarus*, a new genus of the Delesseriaceae (Rhodophyta). Bot. Mag. Tokyo 84: 243-246.
Mikami, H. 1972. *Neoholmesia*, a new genus of the Delesseriaceae (Rhodophyta). Bot. Mag. Tokyo 85: 85-88.
Mikami, H. 1973. *Yamadaphycus*, a new genus of the Delesseriaceae (Rhodophyta). Phycologia 12: 139-143.
Mikami, H. 1992. *Yoshidaphycus* gen. nov., based on *Branchioglossum ciliatum* Okamura (Delesseriaceae, Rhodophyta). Jpn. J. Phycol. 40: 385-391.
Yoshida, T. & Mikami, H. 1986. Observations on morphology of *Hypoglossum minimum* Yamada and *H. geminatum* Okamura (Delesseriaceae, Rhodophyta). Jpn. J. Phycol. 34: 177-184.
Yoshida, T. & Mikami, H. 1990. *Pollexfenia japonica* sp. nov. (Delesseriaceae, Rhodophyta) from central Honshu, Japan. Phycologia 29: 200-206.
Yoshida, T. & Mikami, H. 1991. *Sorella pulchra* (Yamada) comb. nov., based on *Erythroglossum pulchrum* Yamada (Delesseriaceae, Rhodophyta). Jpn. J. Phycol. 39: 123-129.
Yoshida, T. & Mikami, H. 1992. *Branchioglossum spiniferum* sp. nov. (Delesseriaceae, Rhodophyta) from north Kyushu. Jpn. J. Phycol. 40: 379-384.
Yoshida, T. & Mikami, H. 1994. Observations on *Vanvoorstia spectabilis* Harvey and *V. coccinea* Harvey (Delesseriaceae, Rhodophyta) from southern Japan. Jpn. J. Phycol. 42: 11-20.
Yoshida, T. & Mikami, H. 1996a. Observations on Japanese species of the genus *Martensia* (Delesseriaceae, Rhodophyta) with the description of *Neomartensia* gen. nov. Phycological Research 44: 101-106.
Yoshida, T. & Mikami, H. 1996b. *Sorellocolax stellaris* gen. et sp. nov., a hemiparasitic alga (Delesseriaceae) from the east coast of Honshu, Japan. Phycological Research 44: 125-128.
Yoshida, T. & Mikami, H. 1997. *Erythroglossum latum* sp. nov. (Delesseriaceae, Rhodophyta) from the east coast of Honshu, Japan. Phycological Research 45: 169-172.

(札幌大学・生物, 062-8520 札幌市豊平区西岡3条7-3-1)